

多様性

長野県東御市の富山型デイサービス「岩井屋」が開所して1

年が過ぎた2007年、施設長の岩井孝司さん(43)は年齢は当時21歳、思いを巡らせていた。「障害者の仕事を何かつけれないかなあ」

岩井屋を利用する数人の障害者は、お年寄りと同じ中のお年寄りと同じと過ごしている。働くだけの体力があった。

そんな時、お年寄りとの会話の一つのヒントになった。「今はハウレンソウが旬ですね」「小さいころは稲刈り休みがあったね」。長野県は農家戸数全国一

を誇る農業県。畑や米作りの話題は自然と盛り上がった。「農園」というイメージが湧いた。

「ここを使わないか」

しばらくして、農園の話を目にした岩井屋近くの休耕田の所有者が提案してきた。かつて学

手で かな やわらかな

第2章 はたちの軌跡 15

に、農園をスタートした。



ただ、農業はそんな甘くはなかった。最初の1年は失敗の連続だった。農園を任せられたスタッフの高橋克也さん(39)は過去に農業法人に籍を置いていたが、分らないことだらけ。4人の障害者は農業経験が全くなかった。トマトの実は小さく、ニンジンも発芽しない。困っていた時、助けてくれたのはデイに通うお年寄りだった。



岩井さん(手前右から2人目)と、収穫したハクサイを運ぶ利用者ら―長野県東御市

で倒れ、左腕と左足にまひが残ったが、福祉への情熱は消えていない。

統廃合で使われなくなった保育園の園舎で富山型デイを始め

販売を始めた。今ではハクサイやダイコンなど年間約40種類を栽培し、レストランへの出荷や東京での出張販売も行う。畑は6カ所に増え、スタッフ以外に、利用者約30人が携わる。毎月賃金も支払っている。作業に励む男性は「ようやくで

新しい富山型デイの形だ。「みんなが支え合えるのが富山型の良さ。地域の拠点として発展していけばいい」

山型デイを参考にした共生型施設は、全国に広がり、岩井屋のように地域に定着して、多様な変化を見せている。

高知県は、中山間地に「あつたかふれあいセンター」を整備し、誰でも利用できるサロンをはじめ、高齢者らの見守り訪問や買い物支援などを展開している。熊本県では「地域の縁がわ」という名称で、空き店舗や空き校舎を活用した居場所づくりが進んでいる。

惣万さんが掲げた「誰も排除しない」という理念は全国各地で確実に浸透している。

「富山型」地域で七変化

第2章おわり。第3章は3月上旬から始まります。

散歩がてら農園に来て、剪定の仕事や種のまき方を教えてくれた。おじいちゃんやおばあ

ちゃんが「先生」になった。アドバイスのおかげで、立派な野菜が実り、地元の道の駅で

岩井さんはそう願っている。

(取材担当〓社会部次長・尾山善昭、報道センター・正平彰)

校農園として使われていた470坪の土地だった。岩井屋は8年春、障害者の就労支援を目的

た。散歩がてら農園に来て、剪定の仕事や種のまき方を教えてくれた。おじいちゃんやおばあ

ちゃんが「先生」になった。アドバイスのおかげで、立派な野菜が実り、地元の道の駅で

岩井さんは11年12月、脳出血

惣万佳代子さん(61)創設の富

善昭、報道センター・正平彰)